

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 45 号

看護学生の臨床推論力を促進する教育プログラムの開発

(Development of an educational program to promote clinical reasoning skills among nursing students)

齋藤 雪絵 (さいとう ゆきえ)

博士 (看護学)

論文内容の要旨

【目的】

本研究の目的は、看護学生の臨床推論力を促進する教育プログラムを開発し、その評価を行うことである。

【方法】

第 1 研究では、初めて患者を受け持つ臨床実習を履修した看護系大学 3 年生 10 名を対象に、半構造化面接を実施し質的に看護学生が抱いていた臨床推論を行う上での困難さや学習上の課題を明らかにした。第 2 研究では、ADDIE モデルに沿い、第 1 研究の結果から抽出されたカテゴリーとサブカテゴリーから学習内容を抽出し教育プログラムを作成した。第 3 研究では、看護系 B 大学 3 年生 9 名に教育プログラムの実施してもらい、学習到達度と学習の動機づけ、教材のユーザビリティ評価を収斂型混合研法を用いて行った。

【結果・考察】

第 1 研究により、看護学生は、観察することの難しさや膨大なデータから必要なデータを見極めること、データを取捨選択すること、データに裏づけられたアセスメントすることに困難を感じていることが明らかになった。その結果を基に、第 2 研究では、学習管理システム Moodle を使用した約 10 分の STEP 全 5 回、合計約 75 分の教材を作成した。学習教材には図やイラスト活用し、思考過程を言語化した。模擬事例動画を活用し、看護師と患者の様子をイメージできるようにした。さらに、どのように思考するか、具体的な例を挙げ、思考内容を可視化できるように示した。

看護系 A 大学の 2 年生と 3 年生にプレテストを行い、学習到達度の全体と学年別に合計得点を前後比較した。その結果、学習教材実施後の方が実施前より有意に高くなっていることから学習教材の効果があつたと考えられた。第 3 研究では、協力者に教育プログラムの実施してもらい評価した結果、量的調査では、有意な差は認められなかったが、質的調査では、新たな臨床推論の視点を獲得していることがわかった。

【結論】

本研究で作成した学習教材の特徴は、臨床推論の考え方の思考過程を段階的に可視化したことである。思考過程を見える化した学習教材によって、新たな思考の視点を獲得できていることから、思考過程を見える化したことは効果的であつたと考える。さらに、看護学生が目指す、看護師としてのゴールを示す要素を入れた教材設計することにより、この学習教材の価値づけがなされ、さらに動機づけることができたのではないかと考えられる。また、学習教材を何度も反復学習することで学習内容は定着化され、学習到達度が向上する可能性があるとし唆された。